

### 3. 経営成績および財政状態

#### (1) 当中間期業績等の概況

##### - 業績の状況

わが国経済は、厳しい雇用情勢の中、個人消費の低迷や設備投資の減少が続くなど、依然として長いデフレ状態が続いております。とりわけ医薬品業界は医療費適正化の諸施策の浸透の下に難しい事業環境におかれております。一方、海外ではアジア諸国の景気は概ね緩やかな回復基調にあるものの、米国経済が減速し、先行きに不透明さが増しております。

当社はこのような状況の中で、新製品の投入や新市場の開拓など積極的な営業活動を展開しましたが、連結売上高は1,402億4千7百万円余（前年同期比0.1%増）になりました。

事業の種類別売上高は次のとおりであります。

セルフメディケーション事業	1,032億円余（前年同期比 0.8%増）
内訳	
一般用医薬品等	981億円余（前年同期比 0.1%増）
家庭用品および公衆衛生用剤	44 "（" 23.2%増）
その他の他	6 "（" 13.3%減）
医薬事業	369億円余（前年同期比 1.6%減）
内訳	
医療用医薬品	301億円余（前年同期比 3.3%減）
その他の他	43 "（" 24.1%増）
工業所有権等使用料収益	24 "（" 14.7%減）

国内における売り上げ動向は次のとおりであります。

セルフメディケーション事業では、ドリンク剤の「リポビタンシリーズ」はほぼ横這い（0.9%減）でした。コンビニエンスストアや食品スーパー、自動販売機などの新チャンネルでの伸びが薬局チャンネルの落ち込みをカバーしたものであります。風邪薬「パブロンシリーズ」は堅調な伸び（14.1%増）を示しましたほか、3月に発売した特定保健用食品「コレスケア」や解熱鎮痛剤「ナロンエース」（7.4%増）も売り上げの伸びに貢献しております。壮年性脱毛症における発毛剤「リアップ」は、9月に新発売「リアップ120mL」が寄与しましたが、全体として7.8%のマイナスでした。なお、5月には米国のP & G社（ザ・プロクター・アンド・ギャンブル・カンパニー）他からドロップタイプののど薬「グイックスメディケイテッドドロップ」ブランドの日本国内での無期限使用権を取得しましたが、現在、事業の移行段階で、本格的な売り上げへの寄与は来期以降を見込んでおります。

医薬事業では、主力のマクロライド系抗生物質「クラリス」はほぼ横這い（0.5%減）、末梢循環改善剤「パルクス注」は14.4%減少しました。一方、非ステロイド性消炎鎮痛剤「ロルカム錠」は31.1%、不整脈治療剤「アンカロン錠」は39.8%と順調に上伸しております。しかし、医薬事業全体では前年同期比1.6%の微減でした。

海外におけるドリンク剤の売り上げは、米国、中国で伸びを示したものの、全体としては概ね横這いとどまりました。

利益面につきましては、研究開発費、広告宣伝費などは減少しましたが、岡山工場のドリンク剤ラインの増設や大宮物流センターの新設などによる償却負担増、販売促進費など諸経費の増加によって、経常利益は369億2千3百万円余（前年同期比4.4%減）、中間純利益は215億9千3百万円余（前年同期比0.5%減）となりました。

- 連結キャッシュ・フローの概況

当中間期末における現金及び現金同等物は505億8千5百万円で、前年同期末に比べ323億9千8百万円増加いたしました。

(営業活動のキャッシュ・フロー)

営業活動の結果得られた資金は320億8千2百万円となりました。税金等調整前中間純利益は366億円5千万円と前年同期に比べ1億1千3百万円減少しましたが、売上債権の増加額が6億2千9百万円と前年同期に比べ92億9千7百万円減少したこと、減価償却費が78億7千5百万円と前年同期に比べ13億4千9百万円増加したこと、法人税等の支払額が162億3千5百万円と前年同期に比べ27億9千3百万円減少したことなどにより、前年同期比88億9千4百万円の増加となりました。

(投資活動のキャッシュ・フロー)

当中間期では投資活動のキャッシュ・フローが92億6千2百万円(前年同期比287億8千4百万円増)と増加しましたが、主な要因は長期の定期預金から3ヶ月内の定期貯金に組替えたことによる定期預金純増減が369億4千万円(前年同期比333億2百万円増)あったことによります。投資活動では、富山化学工業株式会社株式の取得による支出が186億6千2百万円(前年同期比186億6千2百万円増)ありましたが、一方で有価証券の償還による収入が191億円(前年同期比130億9千7百万円増)、投資有価証券の売却などによる収入が39億7千万円(前年同期比39億2千7百万円増)ありました。また大宮物流センターの建設、本社第2ビルの建設などによる有形固定資産の取得96億3千8百万円(前年同期比9億2千1百万円増)と増加しております。

(財務活動のキャッシュ・フロー)

財務活動の結果使用した資金は165億5千5百万円(前年同期比80億7千7百万円増)となりました。これは主として自己株式取得による支出80億6千6百万円(前年同期比80億5百万円増)によるものです。また配当金支払は84億5千8百万円(前年同期比3千6百万円減)でした。

(2) 通期の見通し

下期は一段と厳しい事業環境が続くことが予想されますが、引き続き積極的な営業活動の展開および経営全般の効率化などを推進してまいります。

なお現在、当社は富山化学工業株式会社との間で業務提携計画の詰めを行なっておりますが、下期には富山開発品の販売権の部分的移転にともなう対価の支払や、医薬販社立上げに関する費用などの発生が予定されております。

この結果、通期の連結業績は次のとおりとなる見通しであります。

(平成14年3月期比)

売 上 高	2,735億円	(0.8%増)
経 常 利 益	605 "	(10.3%減)
当 期 純 利 益	352 "	(5.8%減)